

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 井堀 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な正答率は、全国平均と比べて下回っている。全体的に無解答率が低かった。
	よくできた問題	表現の効果を考える問題の正答率が、全国平均と比べてやや高かった。
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係を描写を基に捉えたり、漢字を文の中で正しく使ったりする問題の正答率が全国平均と比べて低かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的な正答率は、全国平均と比べて下回っている。解答時間が足りないと感じた児童の割合が多く、最後まで問題が解けなかった児童がいた。
	よくできた問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題の正答率が、全国平均と比べて高かった。
	努力が必要な問題	割合を分数で表したり、最小公倍数を求めたりする問題の正答率が、全国平均と比べて大変低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的な正答率は、全国平均と比べて下回っている。解答を文章で書く問題を苦手と感じた児童が多かった。
	よくできた問題	昆虫の体のつくりについての問題の正答率が、全国平均と比べて高かった。
	努力が必要な問題	情報を複数の視点で分析し解釈したり、結果を見通し問題を解決するための道筋を構想したりして、自分の考えを書く問題の正答率が、全国平均と比べて大変低かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>起床・就寝時間が規則正しい児童が多い。また、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童がとて多い。しかし、家での学習時間が短く、テレビゲーム(コンピュータ、携帯を使ったゲームも含む)をする時間が長い児童が多い。読書好きの児童が多く、「いぼりんニュース」に取り組んでいることから、新聞を読んでいると答えた児童がとて多い。</p> <p>道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動をよく行っている。そのためか将来の夢や目標をもっている児童が多い。また自分でやると決めたことをやり遂げようとして、人の役に立ちたいと思ったりしている児童が多い。人が困っている時に助けようとするなど、やさしく、いじめはどんな理由があってもいけないと思っている児童も多い。</p> <p>学校に楽しく通っている児童が多い。学校での学習(話し合い、自分の考えをまとめ発表するなど)をする際に、PC・タブレットなどのIC機器の使用率が低い。学級会などを通して、学校生活をよりよくするために話し合ったり、それを生かして自分の努力すべきことを決めて取り組んでいる児童が少なかつた。国語・算数・理科の学習は大切と感じている児童が多い。しかし、国語・算数科に関しては、授業の内容が難しいと感じている。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

主題研究を継続するなどして、更に児童の「思いやり」の心の育成を目指し、児童に「やればできる」という自信を身に付けさせるようにする。少人数指導を行うなどして、国語・算数科を中心とした授業改善の工夫を行う。学習でPC・タブレットなどのIC機器を効果的に活用する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

宿題の量を調整して、家庭学習の充実を図る。国語・算数科の基礎学力が定着するように宿題の内容を精選しながら、継続的に取り組ませる。また、現在取り組んでいる自主学習も継続・充実させる。